



トーカロ株式会社
取締役 専務執行役員
管理本部長

後藤 浩志

2030年までの成長シナリオに沿って、さらなる基盤整備と成長のための投資を継続

2025年3月期の業績と次期見通し

中長期の“あるべき姿”実現へ 堅実かつ慎重な投資を継続

この度、専務執行役員に就任し、身が引き締まる思いです。2016年の入社以来、経理部長から取締役、常務執行役員と歩んでまいりました。この経験を活かし、新体制では小林社長を支え、会社の発展に貢献してまいります。

2025年3月期は国内・海外ともに半導体・FPD分野で需要が拡大した結果、大幅な増収・増益となりました。環境エネルギーをはじめとしたその他の分野でも好調に推移し、過去最高の売上高と経常利益を達成しました。

主力の半導体・FPD分野では、2026年3月期の後半から2027年3月期以降も好調な需要が継続すると見込んでいます。今

後はカーボンニュートラル関連でも世界規模で高い需要が続くものと思われます。産業機械、エネルギー関連においても、2030年、2040年という中長期的な視野で受注・売上の拡大を図ってまいります。

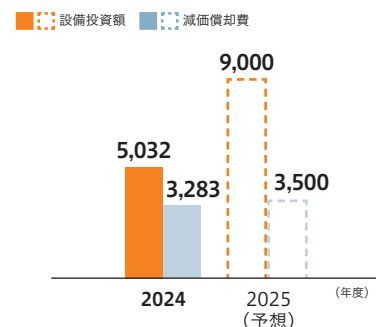
当社は中長期的な戦略の一環として、2025年度より北九州工場、東京工場で新工場の建設に着手し、次の成長のために積極的な設備投資に取り組んでいます。設備投資に伴う固定費、減価償却費の増加は避けられないものの、中長期的な基盤整備と成長に必要な投資と位置づけており、着実に推進してまいります。当社はこれまで約10年間、実質無借金の経営を続けておりますが、今後も銀行借入などのデット(負債)も活用しつつ、高水準のROEを維持しながら安定した財務運営を行ってまいります。

受注売上の拡大に向けて、製造現場では

取締役 専務執行役員 管理本部長メッセージ

可能な限り自動化や半自動化を進め、効率的な運営を目指していきます。また、情報セキュリティに関しても、これからの厳しいグローバル競争に対応するため、必要な投資を惜しまず行っていきます。その一環として今年4月に「情報セキュリティ管理室」を新設しました。加えて、大規模災害や事故に備えた事業継続計画(BCP)の拡充も重要です。これを怠って何らかの事故が起きれば会社を揺るがす重大な損失になりかねませんし、また従業員や地域の安全のためにも不可欠ですので、基盤投資を含めて積極的に進めていきます。そして最も重要な観点はサプライチェーンの維持、強化だと考えています。生産活動を日々支えていただいているサプライヤーの皆さんと一緒に今後も持続的な成長に向けた取り組みを続けていく考えです。

設備投資額・減価償却費 (百万円)



人財戦略

「グローバルチャレンジ制度」の活用で、国内外の人事交流の活発化へ

トーカロでは現在、中長期的視野から、設備投資と並んで“人への投資”を重視しています。これはより多くの人財を確保し、その質を高めていくものです。積極的な新卒・中途採用、意欲ある従業員への教育・研修を進めていますが、国内・海外を問わずグループ全体での人事交流をさらに活発にしていく必要があると考えています。

たとえば2004年に100%子会社化した日本コーティングセンターは、表面処理技術で確かな実績とノウハウがあります。2024年8月にグループ会社となった寺田工作所は、工作機械・精密部品メーカーとして高い機械加工技術を有しています。グループ一体となって人と人との交流を軸とした運営が不可欠です。今後は、国内と海外拠点間における機動的な人財交流もさらに強化させていく必要があります。

こうした中長期的なグローバル展開を支える人財の育成を目的に「グローバルチャレンジ制度」を2022年度にスタートしました。この制度への参加者はこれまでの3年間で40名となります。5年先、10年先

を見据え、幹部クラスも含めた意欲のある従業員にはさらに資本を投下していく考えです。また、製造、品質管理の部門においても、海外で活躍できる能力を備えた人財を計画的に育成し、海外拠点に派遣するなど、今後も戦略的かつ積極的にグローバル人財育成を実施していく考えです。

“人への投資”で大切なのはさらなるダイバーシティ推進です。これまでも働きやすい職場づくりを進めてきましたが、あらためて今後5年間は“働きがいのある職場”、“やりがいをもって働ける職場”としての組織づくりに一層注力する方針です。働きがい、やりがいは一人ひとり異なるものです。私たち経営陣と現場との対話を通して、さらに働きがいのある職場を目指してまいります。

将来展望

長期的な成長を続けて、広く社会に貢献していく企業を目指して

事業規模の拡大に伴うリスクをいち早く把握して、スピーディーに対応していくための取り組みも行っています。当社ではグループの監査役が四半期ごとに情報共有しているほか、グループ全体の現状と課題を確認するリスク管理委員会やコンプライ

アンス委員会を開催しています。グループ各社の業績だけでなく、気づきづらい潜在的なリスクについて検討し、問題があれば即時対処する体制を整えています。海外事業拠点については海外事業本部が、国内についても経営企画部が主管して、事業拡大に伴うリスク管理を徹底しています。

「それ遠きをはかる者は百年のために杉苗を植う」、江戸時代に武家や農村の復興に尽力した、二宮尊徳の言葉であり、経営の指針としてよく引用されます。「100年先の将来を考えて杉の苗を植える者が豊かになる」という意味です。トーカロは“100年企業”を目指して常に成長を続けていく企業です。今後の短期的な業績の見通しと投資戦略、中長期的な視野に立った人財戦略と業績拡大のための取り組みを紹介しましたが、こうした施策を着実かつ慎重に実行してさらなる企業価値を向上し、社会に貢献してまいります。

